



● 茶会

京博特集展示連動茶会
道具と次第を味わう
歳暮の一席・川端近左
膝談茶会

● 講座

竹生園にて学ぶ
お正月を彩る
青竹の花入づくり

茶の湯と「茶」
—「いいお茶」は誰が決めているのか—

● 特別イベント

祇園町の内へ
—花街のおもてなし—

● ツアー

日本茶の湯紀行
紀州が育んだ茶の湯文化
京都西山から
南丹をめぐる
〜山里に息づく神と酒と器〜

Instagram



@TANKO_CULTURE

LINE



[お問い合わせ・お申し込み] (お電話受付時間 平日9:00~17:00)

Tel 075-432-4090 Fax 075-432-0850

株式会社淡交社 文化事業部 | 〒603-8588 京都市北区堀川通鞍馬口上ル

令和八年 南宗寺茶会

— 南宗庵草創500年に寄せて

お申込



客殿(薄茶席)

こちらには千利休像・武野紹鷗像が安置されています。当日、拝観いただけます。

11月1日①・2日②

南宗寺は、茶の湯の歴史を語るうえで欠かすことのできない場所です。武野紹鷗、千利休、津田宗及、今井宗久——茶の湯に大きな足跡を残した堺の茶人たちは、この地で禅僧と交流し、禅に親しみました。南宗寺は、禅と茶の湯が深く交わった場所として、その面影を今にとどめています。令和八年は、南宗寺の前身・南宗庵の草創から五百年。その節目に、南宗庵を開いた古嶽宗亘、そして南宗寺開山・大林宗套ゆかりの道具を取り合わせ、南宗寺住持・田島碩應老師が濃茶席席主を務めます。

利休好の二畳台目「実相庵」での展観席とあわせ、五百年の時を経て南宗寺に息づく禅と茶の湯に、ひととき思いを寄せていただければ幸いです。



広間(濃茶席)

席主 濃茶席 田島碩應老師
(吉田宗皎〔裏千家淡交会堺支部参与〕)
薄茶席 太田宗宝
(裏千家淡交会堺支部参与)

会費 40,000円(税込)

定員 15名(1席)

席入 1席目 10:00 2席目 11:00
3席目 12:00 4席目 13:00
5席目 14:00

※ご希望の席をお選びください

内容

濃茶席／広間 展観席／実相庵

薄茶席／客殿

点心席／本堂広間(日本料理 味所望〔堺市北区〕)

墓参／千利休一門の供養塔・武野紹鷗の供養塔

境内自由見学／重要文化財 山門(甘露門)・唐門・仏殿等

田島碩應老師 プロフィール

1951年、東京都生まれ。1976年、京都・大徳寺僧堂に掛塔し、看雲室・中村祖順老師に師事。その遷化後、嶺雲室・高田明浦老師のもとで修行を重ね、嗣法する。1995年、南宗寺住職ならびに南宗寺僧堂師家に就任。2011年、大徳寺第526世(再往大徳)に任じられる。室号は吹毛軒。



会場

龍興山 南宗寺(大阪府堺市)

※現地集合・現地解散となります

※アレルギーのある方は

必ずご予約の際にお知らせください



甘露門



南宗寺正門



実相庵内観

※弊社オンラインサービス「TANKO+」では、特別記事「茶の湯の源流をたずねる 堺・南宗寺と禅」を公開中。田島老師のお話をもとに、境内・寺院内部の写真や動画とともに、南宗寺と茶の湯の深いつながりをたどります。



茶湯コンシェルジュ
TANKO+



京都国立博物館 特集展示連動茶会 道具と次第を味わう

お申込



12月22日(火) 特集展示「茶の湯の道具と次第」開催初日

茶道具は、使われ、受け継がれるなかで、箱や銘、伝来といった「次第」をまもっています。本茶会では、京都国立博物館の特集展示「茶の湯の道具と次第」と連動し、研究員による解説を手がかりに、茶席で実際の道具と向き合います。展示で得た視点を茶席で確かめ、茶席での出会いを展示で深める——見るだけでは届かない、道具の来歴に触れる一日です。

※なお当日は、芦屋釜をはじめとする茶の湯にちなむ展示も同時開催されております。あわせてご観覧いただけます。



茶室(堪庵)

時 間

1席目	10:00
2席目	11:00
3席目	11:00
4席目	11:30

1・2席目 …… 茶席(続き薄茶) ⇨ 解説 → 展示見学 → 点心席(自由解散)
 3席目 …… 点心席 → 茶席(続き薄茶) ⇨ 解説 → 展示見学(自由解散)
 4席目 …… 点心席 → 展示見学 → 茶席(続き薄茶) ⇨ 解説(解散)

※3・4席目は点心会場集合となります



堪庵内観

会 費 25,000円(税込)

定 員 20名(各席)

※茶席・解説は2班に分かれ、交代制でご案内いたします

会 場 京都国立博物館
茶室「堪庵」
京料理 はり清(点心会場)

※現地集合・現地解散となります
 ※博物館⇨点心会場間、バスにて送迎いたします



はり清 料理イメージ

席 主 大杉宗直

おおすぎ そうちよく: 京都の香の老舗・山田松香木店取締役営業本部長。少年期より古美術に興味を持ち、裏千家の茶を学ぶ。茶道・香道のみならず、書道や篆刻など幅広い趣味をもつ。

解 説 降矢哲男

ふりや てつお: 京都国立博物館 工芸室長。九州大学大学院人文科学府博士後期課程単位取得退学。専門は陶磁史、中世考古学、日本文化史。京都国立博物館では「国宝」「京に生きる文化 茶の湯」などの展覧会を担当。著書に『茶道教養講座⑨』ほか。



細川三斎好 御本丸紋釣舟花入 平瀬家伝来 ※当日は実際に、こちらのお道具を含めた数点を、研究員にご解説いただきます。



京都国立博物館 正門

歳暮の一席・川端近左 膝談茶会

お申込



12月14日(月)

江戸後期より二百年にわたり、塗師として、蒔絵・螺鈿の技と洗練された意匠で三千家に愛されてきた名跡・近左。その伝統を継ぐ六代川端近左氏のご自宅兼工房を特別に訪ね、小さな茶会を催します。歴代の技と精神を受け継ぎつつ、常に新しい美を追い求める近左氏と膝を交えてお話を聞きながらの和やかな一席です。漆黒の光沢に美が宿る歴代の名品などを用いておもてなしいたします。

集合時間 1席目 9:15 2席目 12:45

集合場所 JR天王寺駅

※駅からの移動はタクシーを使用します



左から上巳蒔絵大甕、水仙蒔絵大甕、草花蒔絵溜大甕



川端近左先生

席主 川端近左

六代川端近左氏（本名・一价、1947年生）は、五代近左の長男として大阪に生まれる。京都市立芸術大学卒業後、父・五代に師事し、木地作りから加飾まで基礎を学び、平成12年（2000）に六代近左を襲名。

会費 28,000円（税込）

定員 各席 7名（最少催行5名）

内容 濃茶続き薄茶

展観席（工房見学）

点心席（かが万謹製 松花堂弁当）

会場 川端近左氏自宅兼工房茶室
（大阪市阿倍野区）

京都・鷹峯【聴松庵茶会】

—近代化に伴う十一代玄々斎と
聴松庵主の交流で生まれた茶の湯空間—

お申込



10月17日(土)・18日(日)

濃茶席はしょうざんの古木台杉群の中に佇む茶室「聴松庵」。本年150回忌を迎えた玄々斎精中の設計と伝わる由緒ある茶室であり、一部修復を経て久方ぶりのお披露目となる貴重な機会です。席主は茶室建築家・飯島宗照先生。

—茶室の一部修復によって
詳らになった伝世の初解説を茶会で—

【玄々斎の茶室デザインと好み】

【玄々斎と聴松庵主の茶の湯の交流】

【大徳寺寸松庵に因む聴松庵と三井家】など

明治維新後の東京遷都によって活気を失った京都では、その再興を目指して京都博覧会が開催されるなど、近代化への熱いうねりが生まれていました。玄々斎もまた、こうした京都の再興に向けた動きに関わりながら茶の湯の振興に力を注いだ人物の一人です。この度の茶室の再興をきっかけに、当時の時代背景や人間関係をもとに、聴松庵の歴史を紐解き、玄々斎と聴松庵主の関わりや茶の湯の近代化の歩みを語ります。濃茶の取り合わせ、点心は、玄々斎自らが催した200年余り前、明治5（1872）年の茶事の記録を飯島先生が文献から紐解き、点心はたん熊北店により出来得る限り再現を試みます。明治の玄々斎の歩みを辿る、またとない時間をお楽しみください。

席入 1席目 9:00 2席目 10:00

3席目 11:00 4席目 12:00

5席目 13:00 6席目 14:00

※ご希望の席をお選びください



茶室「聴松庵」（濃茶席）



茶室「玉庵」（薄茶席）

内容 濃茶席／聴松庵

薄茶席／玉庵

点心席（たん熊北店）／峰玉亭

席主 飯島宗照 定員 8名（各席）

参加費 49,000円（税込）

※参加費には「MOSS KOGEI Kyoto 2026」入場料[5,500円（税込）]を含みます

会場 しょうざんリゾート（京都市北区）

※京都市営地下鉄「北大路駅」より
送迎バスの運行を予定しております

※本催事は光悦のひらいた芸術村のあった京都・鷹峯を舞台にしょうざんリゾートで開催される、現代の工芸作家が集う秋の工芸イベント「MOSS KOGEI Kyoto 2026」内で「光悦憧憬」というタイトルで実施される特別茶会です。

竹生園にて学ぶ お正月を彩る 青竹の花入づくり

お申込



12月15日(火)

※お申込の状況により、12月17日(木)に
追加日を設ける場合がございます

二、三年の若い竹は、瑞々しい青みと艶やかな表情をたたえ、古くからお正月を祝う吉祥のものとして、生命力や清らかさの象徴とされてきました。本体験では職人が一人ひとり丁寧に手ほどきをし、竹の見立てから仕上げまで、手仕事の奥深さに触れながら、青竹で一重切り花入を仕立てていただきます。

昼食には、明治創業の料亭・錦水亭へ。八条ヶ池を望む数寄屋造りのお座敷で、季節の趣を感じながらお弁当をゆつりとお楽しみください。年の瀬の慌ただしさから離れ、冬の竹林を眺めながら竹と向き合うひととき。

花入の歴史に触れ、千利休が大成した侘茶の精神に思いを馳せながら、新年を迎える季節にふさわしい一日をお過ごしください。

時間 10:00~15:30 終了予定

定員 10名

会費 45,000円(税込)

内容 青竹花入制作／呈茶

(竹生園／高野竹工)

昼食(錦水亭)

書籍進呈『自然がつくる竹の美』(高野宗陵著)

※青竹花入の保管・使用方法については
当日詳しくお伝えいたします。

会場 竹生園、錦水亭(長岡京)

※現地集合・現地解散となります

錦水亭 半月弁当 ※イメージ



花入製作風景／竹生園内観

新講座 茶の湯と「茶」 ——「いいお茶」は誰が決めているのか

お申込



12月10日(木)

茶席でいただく一碗。その茶葉は、どこで育ち、誰の手を経て、どのように評価されて、私たちのものに届いているのでしょうか。

茶の湯では、道具や空間について学ぶ機会は多くあります。けれど、その中心にある「お茶そのもの」が、どう選ばれ、育まれ、どんな味わいとして価値づけられてきたのかを知る場合は、意外と多くありません。

本講座は宇治茶を入口に、その味と価値がどのように築かれてきたのかを、歴史・作り手・味わいの三つの側面から読み解きます。

時間 午前のクラス 10:00~

午後のクラス 13:30~

会費 8,800円(税込)

定員 15名(各会)

内容

- ・抹茶ブームと、日本茶の「今」
- ・味わいの見方と飲み比べ
- ・宇治茶から見る茶の歴史と産地
- ・一碗が届くまで(製法・流通・評価)

講師 梅村 崇

うめむら たかし：農林水産省
で日本茶の振興・広報、クール
ジャパン政策に携わったのち、
一般社団法人茶の場代表理事。
裏千家学園講師、日本茶インストラクター。



会場 京都本社 第2ビル
5階第1教室

※本講座では、実際にお茶を飲み比べながら、その味わいや背景についてじっくりと掘り下げます。なお、梅村氏は弊社オンラインサービス「TANKO+」でも、お茶をテーマとした連載を開始予定です。



南宗寺「実相庵」 口切の茶事

お申込



実相庵外観



11月24日(火)・25日(水)

利休好みと伝わる二畳台目茶室「実相庵」。千利休や師の武野紹鷗が参禅したと言われる南宗寺に残されています。

下座床を構え、躰口を点前座寄りに開く独特の構成を持ち、樫の中柱や窓の少ない簡素な室内は、利休が好んだ他の茶室とは異なる趣を見せています。

普段は立ち入ることができないこの茶室で、炉開きの特別な機会に、口切の茶事にておもてないたします。

※当初2席目を「夕去（茶壺拝見）」とご案内しておりましたが、諸般の事情によりどちらの席も「口切の茶事」としてのご案内となりました。ご承知おきの上、ぜひご参加ください。

席 入 1席目 11:00 2席目 15:00

席 主 佐山宗準

会 費 65,000円(税込)

定 員 5名(各席)

会 場 龍興山 南宗寺
茶室「実相庵」(大阪府堺市)
※現地集合・現地解散となります



実相庵内観

下鴨茶寮 茶筴供養の茶事・小寄茶会

お申込



12月12日(土)

利休道歌に曰く『水と湯と茶巾茶筴に箸楊枝柄杓と心新しきがよし』

茶の湯には様々な消耗品があります。役目を終えた消耗品に一年の感謝をこめて供養のお茶会をお愉しみください。茶会は炭手前に薄茶、点心。茶事は茶筴供養の趣向にて。

ご自宅でお使いになった茶巾や柄杓、黒文字、茶筴などを、ぜひお持ち寄ください。

当日、露地にてお焚き上げいたします。

席 主 佐山宗準

会 場 下鴨茶寮本店

※現地集合・現地解散となります



茶室内観



小寄茶会

席 入 1席目 10:00 2席目 11:00
3席目 12:00 4席目 12:00
5席目 13:00

会 費 28,000円(税込)

定 員 6名(各席)

内 容

[1・2・3席]

初炭(茶筴供養)→薄茶二服→点心

[4・5席]

点心→初炭(茶筴供養)→薄茶二服



点心 ※イメージ

茶事

席 入 16:00

会 費 50,000円(税込) 定 員 5名

祇園町の内へ —花街のおもてなし

お申込



祇園甲部会公式HPより ※イメージ

10月29日(木)

一見さんお断りのならわしにより、祇園のお茶屋は訪れる機会の少ない場所です。このたびはその座敷にお入りいただく機会をご用意いたしました。

まずご覧いただくのは、男衆による着付けの支度。だらりの帯を締めるその手つきは、普段お客の目に触れることのない仕事です。支度が整えば、地方の三味線にのせて舞妓が舞います。続いて舞妓によるお呈茶と、座敷でのおもてなしを間近に。

点心の「京趣味 菱岩」を始め、抹茶・菓子に至るまで、お口に入るものはすべて祇園町のもので揃えました。

お茶屋の座敷で過ごすひとときを、どうぞお楽しみください。

席 入 1席目 10:00
2席目 13:00 (2時間程度)

解 説 佐山宗準

内 容 男衆による着付け見学
舞踊鑑賞／呈茶
点心 (京趣味 菱岩)
※2席目は、点心からお召し上がりいただけます

定 員 10名 (各席)

会 費 55,000円 (税込)

会 場 お茶屋 イ (にんべん)
※現地集合・現地解散となります



左:お茶屋イ外観/右:「京趣味 菱岩」点心 ※イメージ

第12回 茶室建築家 飯島照仁先生 とめぐる茶室探訪

お申込



11月10日(火)・12日(木)

茶の湯のための空間である「茶室」。茶室は茶の湯のひろがりや美意識の多様性に合わせ、空間構成や材料、使い勝手を重視したもののなど、様々な分野において発展してきた茶人の想いが詰まった特別な空間です。そんな茶室を、茶室建築家・飯島照仁先生とともにめぐり、特徴や見所、その空間に込められた茶人の想いに踏み込んで学びます。第12回目の開催となる今回は「真言宗御室派総本山 仁和寺」と「大雲山 龍安寺」に赴き、通常非公開の茶室を特別見学いたします。

飯島先生のご解説のもと、歴史と美意識が息づく特別な空間を訪ね、茶の湯のひろがりを感じる特別なひとときをお楽しみください。

案内人 飯島照仁 (茶室建築家)

参加費 42,000円 (税込)

定 員 20名 (最少催行人員16名・添乗員同行)

内 容 9:30…淡交社 京都本社 ご集合

大雲山 龍安寺

室町幕府の有力者であった細川勝元が1450年に創建した禅寺

- 通常非公開茶室「蔵六庵」特別見学
- 仏殿、細川護熙氏作品等 特別拝観

昼食 京都 御室 佐近

真言宗御室派総本山 仁和寺

888年 (仁和4年) に創建された寺院で平成6年には世界遺産に登録されている

- 通常非公開茶室「飛濤亭」「遼廓亭」(いずれも重要文化財)

16:00頃…淡交社 到着後、解散



上:仁和寺茶室「飛濤亭」
左:仁和寺茶室「遼廓亭」



※ツアー中は貸切バスでの移動となります ※アレルギーのある方は必ずご予約の際にお知らせください

日本茶の湯紀行 紀州が育んだ茶の湯文化

お申込



秋の紀三井寺多宝塔

11月16日(月) 日帰り

古くより千家と深いご縁のある紀州徳川家。今回は三木棚発祥の地を訪ね、ご考案なされた宗匠に想いを馳せます。また和歌山の豊かな食材を味わい、名水の誉れ高き紀三井寺にて一服をいただきます。秋の紀州路にお茶を楽しむに出かけませんか。

※ツアー中は貸切バスでの移動となります ※アレルギーのある方は必ずご予約の際にお知らせください

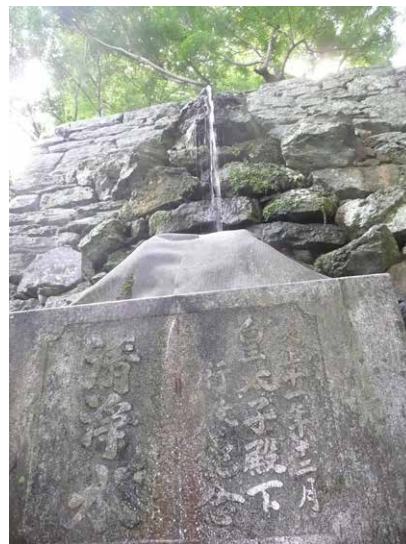
ご案内 佐山宗準

定員 20名(最少催行人員16名・添乗員同行)

会費 47,000円(税込)



角長に伝わる版画



紀三井寺三井水の一中の瀧・清浄水



醤油の発祥地である湯浅で昔ながらの手作り醤油を製造

内容 9:50…新大阪駅 ご集合

昼食 ナチュラルガーデン

リーガロイヤルホテルグループにて料理人を勤めたシェフが出身地で「地産地消のフレンチ」を実現。醤油や味噌を用いた特別ランチコース

湯浅町

日本屈指の醸造類の産地

- 「角長」創業170年、湯浅醤油でも最古の歴史を誇る醤油店 特別見学
- 自由散策

紀三井寺

奈良朝時代、唐僧・為光上人によって開基された霊刹。吉祥水、楊柳水、清浄水という三つの霊泉が湧くことに由来

- 参拝 ●拝観 ●名水にて茶席

総本家駿河屋善右衛門

豊臣秀吉の茶会に用いられ絶賛を受けた蒸羊羹、紀州徳川公が召し上がった本の字饅頭が有名な老舗和菓子舗

- お買い物

三木町

かつての城下町であり、表千家四代の江岑宗左が居住した。好みもの「三木町棚」発祥の地

- 佐山先生のご解説にて車窓見学

18:00頃…JR新大阪駅 到着、解散

総本家駿河屋善右衛門 本ノ字饅頭



京都西山から南丹をめぐる

～山里に息づく神と酒と器～

お申込



松尾大社 御本殿

12月11日(金)

会費 32,000円(税込)

定員 20名(最少催行人員16名・添乗員同行)

行程 9:00…JR京都駅八条口 ご集合

松尾大社

京都・西山の麓に鎮座する、京都最古級の歴史を持つ神社。古くから醸造の神として信仰を集め、全国の酒造家をはじめ、醸造業に携わる人々から篤い崇敬を受けています。

- 非公開・重要文化財 本殿特別参拝
- 神職による解説と共に松風苑三庭と神像館を拝観
- 霊亀の滝、霊泉「亀の井」の見学

昼食 京・嵐山 錦昭楽窯

明治38年創窯、百余年の歴史を受け継ぐ楽焼の窯元・昭楽窯。侘茶の美意識を受け継ぎ、茶の湯のための茶碗を追い求める、その伝統とものづくりに触れる。

- ご当代様のお話
- 工房見学と作品鑑賞



昭楽窯 佐々木大和様

丹山酒造

京都・亀岡の地で140年以上にわたり酒造りを続ける老舗酒蔵。五代目当主・長谷川渚氏は、全国でも数少ない女性杜氏の先駆的な存在。坐忘斎御家元の嗜好に沿い醸した純米酒「春秋萬歳」は、家元より酒銘を賜ったもの。

- 麹造りの見学
- 貯蔵タンクにある醪へ楷入れ
- 酒蔵見学
- 五代目当主・長谷川渚氏によるお話
- 仕込み水の試飲
- 利き酒(お酒に強くない方には低アルコールやノンアルコール、甘酒などをご用意いたします)

17:30…京都駅八条口 到着、解散

京都西山から亀岡へ、豊かな水と風土に育まれた文化を訪ねます。古くから醸造の神として崇敬を集める松尾大社を訪ね、神社の歴史や名水に触れた後、百余年の伝統を受け継ぐ楽焼の窯元・昭楽窯を訪れます。さらに、亀岡の老舗酒蔵・丹山酒造では、この時期だけの日本酒造りの仕込み行程の一部を特別に見学し体験いただけます。神、水、器、酒——京都の豊かな風土が育んできた、茶の湯ともゆかり深い文化をめぐる一日旅をお楽しみください。



霊亀の滝

麹造り



※ツアー中は貸切バスでの移動となります ※代金や行程、情報は2026年9月現在のものです。

変更になる場合もございますので最終(確定)書面にて必ずご確認ください